

2018年5月28日(月)

英会話道場イングリッシュヒルズ  
文書教材

## 今再び、レッスンの最終ステージで行われる **closing statement** について考える

生井利幸

講師であるわたくし生井利幸は、毎回の60分レッスンにおいて、最後に、**closing statement** (結びの言葉) を行っています。

この **closing statement** は、1分程度、または、レッスンの「空気感」によっては数分程度の時間的空間において、「国際政治・経済、学術、文化・芸術等における世界のトップリーダーが使う教養英語」を用いて行われます。

レッスンの最後に行われる「講師による **closing statement**」は、実は、“単なる最後の結び”ではありません。本質論を述べるならば、60分レッスンにおいて一番大切な部分は、この **closing statement** における時間的空間に存在します。

講師は、教室におけるすべてのレッスンにおいて、レッスンを終了する際に、レッスンの結びとして、様々な英語表現を用いて **the quintessence of elegance** (エレガンスの真髄) を教授しています。

講師は、いつ何時においても、一つひとつのレッスンで行われる **closing statement** において、世界のVIP・教養人・文化人・識者が用いる英語表現を駆使して60分レッスンの幕を閉じています。

この **closing statement** は、受講生においては、英語力というよりも、「人生経験」「社会経験」が豊富でなければ「その意味・価値」について理解することは難しいでしょう。

さらに、深い観点から述べるならば、レッスンを受ける受講生自身が、相当なる考える力、そして、感じる力、即ち、

- (1) 「鋭敏な理性」
- (2) 「繊細な感性」

を備えていることが求められます。

講師は、**closing statement** において、その都度、受講生における学習の進度に応じて、少しずつ、真心を込めて丁寧に「エレガンスの真髄」を教授しています。講師は、毎回のレッスンにおいて、次のようなことを想定して **closing statement** を行っています。それは、以下の如き想定です。

「国際社会において、VIP・教養人・識者が出席する式典・パーティー等においては、『教養のあるエレガント英語』を話すことは必要不可欠である。将来、受講生が何らかの公式のスピーチを行うとき、あるいは、世界の教養人が集まる式典・パーティー等に出席するとき、レッスンで教授される **closing statement** を通して「上級の教養英語、及び、エレガント英語」を学習・習得しておくこと、将来のための準備・投資となる。教室の受講生には、生井利幸の **closing statement** の学習・習得を通して、将来、世界のどのような式典・パーティー等に出席しても、地球に存する一個の人間としての「誇り」「責任」を持って英語を喋ってもらいたい。」

生井利幸が発する **closing statement** は、レッスン受講をスタートしたばかりの新受講生においては、相当なる英語力を持っていても“かなり難しい内容”です。しかし、一つひとつのレッスンにおいて、しっかりと講師の心の中に入り、講師が発する一つ一つの言葉について丁寧に聴き込んでいくと、レッスンを重ねながら、少しずつ、その内容について理解できるようになっていきます。

受講生の皆さん、勉強に勉強を重ね、将来は、この **closing statement** の内容について、しっかりと「自分の教養の一部」としてください。